



飛驒匠の技・ところ

一木とともに、今に引き継ぐ1300年

第一回

今月号より隔月で市内にある日本遺産を紹介し、日本遺産とは、文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定するものです。

飛驒では古代に木工技術者を都へ送ることで税にあてる「飛驒工」の制度がありました。「木を活かす」技術や感性は現在まで引き継がれ、高山の文化の基礎となっています。

皆さんもぜひ、先人たちが現代に残した技術の数々に触れてみませんか？

今回紹介するのは、古代の寺院跡です。飛驒には、14カ所以上の古代寺院が見つかっており、うち11カ所の寺院から7世紀頃を象徴する瓦などの出土品が見つかっています。飛驒工制度が制定される前から高い建築技術を持った人が存在していたことがわかります。

● 出土品から分かる都との交流

一構成文化財 光寿庵跡

国府町にある日本遺産構成文化財の光寿庵跡からは人物や鳥の絵柄が描かれた瓦が見つかっています。描かれた人々の服装が奈良県の正倉院に保管してある屏風の絵柄に似ていることから奈良時代のものと推定されています。また、役人の姿が描かれていることから、都との交流があったことも分かります。



線刻絵画瓦

● 技術の高さを示す礎石

一構成文化財 石橋廃寺塔心礎

国府町の石橋廃寺跡から発見された塔の心柱を支える礎石(塔心礎)で、高い塔がある大きな寺院があったことが分かります。高さは約0.7m、幅は約1m、直径約0.8mの柱を支えています。



石橋廃寺塔心礎

現在は国府町の広瀬古墳横に移されています。

現在、日本遺産フォトラリーを実施しています。現地で石橋廃寺塔心礎を撮影して国府支所に提示すると石橋廃寺塔心礎の説明入り日本遺産カードがもらえます。ぜひ参加ください！



詳しくはこちら

問合せ 文化財課 ☎35-33156

中部縦貫自動車道(平湯～日面) 道路計画

5. 対応方針(案)まとめ 5-1)対応方針(案)

- 速達性・定時性の向上、救急搬送時の速達性・安定性の確保、交通安全・積雪時の走行性の向上、被災時にも機能する信頼性の高いネットワークの確保が最も期待できる【案① 全線バイパス案】とする。
- 観光地へのアクセス性、救急医療施設への速達性の向上を図り、積雪や災害時における代替路を確保することで、道路の機能向上を図り、地域の利便性向上、移動確実性を一層強化するため、中間インターチェンジを配置する案とする。



※地方小委員会資料より抜粋

令和5年2月3日(金)、国土交通省中部地方整備局において、第3回地方小委員会が開催され、計画段階評価における対応方針(案)が了承されました。

市街地へのアクセスが良くなるほか、積雪時や救急搬送時などに安全に通行できるよう整備される予定です。

問合せ 建設課

☎35-33519

市長コメント



印刷/飛驒印刷株式会社



編集・発行/高山市企画部広報公聴課
〒506-8555 岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
TEL/0577-32-3333(代)
FAX/0577-36-2060 (市長室直通)
FAX/0577-35-3174 (広報公聴課直通)

E-mail/kouhou@city.takayama.lg.jp
HP/https://www.city.takayama.lg.jp/
携帯用HP/http://mobile.city.takayama.lg.jp/
防災行政無線の内容は電話でも確認できます
☎0180-995-690

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。